野球部監督の指導理念等に関する一考察
―中学と高校野球の比較から―

功 力 靖 雄

Inquiry Into Baseball Managers' Ideas on Leadership: A Comparison of the Junior High and High School Levels

KUNUGI Yasuo

Ⅰ．はじめに

現在，私どもの筑波大野球研究室では"野球の普及・振興"を一大テーマに掲げて，一般大衆を対象とした『野球への好感度等に関する意識調査』や『女子野球選手の運動生活に関する意識調査』，或いは強豪大学チームのレギュラー選手へ『野球の選手育成等に関する意識調査』などを全国的な規模で実施して，その研究成果を着実に積み上げつつある。

そうした背景には，筑波大野球部の沿革が1896年(明治29)の高等師範学校「ベースボール部」に始まって，東京高等師範学校－東京文理科大学－東京教育大学－筑波大学と，創部104年目を経過した"教員養成"を主に建学理念とする過去の歴史が存在したからといえよう。

事実，筑波大が1974年度(昭和49)に開学して以来，25年間にわたり在職する筆者の本学野球部に対する指導理念・綱領は"指導者の育成"が大前提となっており，実際に卒業した野球部員340名余から200名強を数える学校教師を教育現場へ送りだし，1999年(平成11)に限っても"中学野球日本一"(福岡市立原中学校保健体育科教諭)を達成する快挙と，夏の選手権大会へ3名の教え子(栃木南高校国語科教諭，敦賀高校数学科教諭，静岡高校保健体育科教諭)が現役監督で出場して，甲子園球場のグラウンドに"茗渓旋風"が凄まじく吹き荒れて，大きな話題を呼んだ。

ここでは，それに関連した研究の一環としてアマチュア球界の各階層，すなわち①学童野球，②中学野球，③高校野球，④大学野球，⑤社会人野球，におけるトップクラスの野球部監督に対して問いかけた，『野球部監督の指導理念等に関する意識調査』の概要が整理できたので，紙数の関係から"中学野球"と"高校野球"のアマチュア二大勢力に焦点を絞りながら，それを対比させて分析していく手法によって，今も最前線で活躍中の"等身大の野球部監督像"の心理的側面を，論文的総説として浮かび上がらせたい。

Ⅱ．研究方法

それは概略，次の通りである。

1．意識調査の内容

その構成は2部門から成る。

第1部：回答者のプロフィール

第2部：指導理念等に関するアンケート内容は質問1～8の8項目

2．調査対象

ア）中学野球部：1993年(平成5)～97年(平成9)の全国中学校軟式野球大会で地区大会(例えば関東大会)に出場した250チーム。

イ）高校野球部：1993年(平成5)～97年(平成9)の春の選抜高校野球大会と夏の全国高校選手権大会に出場した253チーム。

3．調査方法

ア）回答者：各チームの野球部監督

イ）仕方：郵送による質問紙法

ウ）質問内容：全て事前に解答群を準備した

エ）記名：匿名方式(無記名回収)

4．調査の実施時期

ア）発送日：1998年(平成10)8月1日

イ）締め切り日：同年9月末日

5．回収率

ア）中学監督：126／250チーム(50.4％)

イ）高校監督：123／253チーム(48.6％)

Ⅲ．結果と考察

ここでは投稿論文の紙数に制限のある関係から，【質問1】「クラブ活動の運営に対する満足度」，【質問2】「監督自身や社会的事象に関する諸問題に対する満足度(30項目)」，【質問7】「クラブ活動の現場にあって“投打の技術指導”の具体的な着眼点，ア)投手のフォームづくり，イ)打者のフォームづくり」，【質問8】「尊敬し目標とする野球部監督の有無と具体的提示」の4項目に関する概要は，全て削除とした。

また，若手監督(5年未満)と中堅監督(5～14年)，ベテラン監督(15年以上)に3区分した監督就任年数別にみた分析結果も省略している。

その大要は，次の通りである。

A．クラブ活動の“ねらい”

質問3．あなたは野球部を指導するにあたって『クラブ活動のねらい』として掲げる内容は，次に列挙する項目についてどの程度あてはまりますか(その該当する番号を○印で囲んで下さい)。

5．非常によくあてはまる。
4．ややあてはまる。
3．どちらともいえない。
2．あまりあてはまらない。
1．全くあてはまらない。

1．中学と高校監督の求める『クラブ活動のねらい』の比較

中学監督における項目別の平均値を，上位から10項目だけピックアップして列挙すれば，①「仲間と協力する連帯感を養う」(以後，連帯感と略す)が4.69±0.54で，中・高にわたる全項目の最高値にあって，次に②「努力を継続する意思力を養う」(以後，意思力と略す)が4.62±0.58で続く(表1参照)。

そして③「可能性に挑戦する向上心を養う」(以後，向上心と略す)が4.58±0.60，④「友人・知人と人間関係を深める」(以後，人間関係と略す)が4.56±0.59，⑤「ルールやマナーを遵守する公徳心を養う」(以後，公徳心と略す)が4.51±0.62，⑥「勝利の喜びや達成感を味わう」(以後，達成感と略す)が4.48±0.69，⑦「スポーツの楽しさを享受する」が4.45±0.71，⑧「自主的な行動力を養う」(以後，行動力と略す)が4.36±0.65，⑨「運動技能を高める」が4.35±0.57，⑨「健康や体力を増進させる態度や習慣を養う」(以後，健康増進と略す)が4.35±0.64となっていた。

一方，高校監督では①「意思力」が4.63±0.53で最も高く，次に②「連帯感」が4.60±0.55であった。そして③「達成感」が4.58±0.56，③「人間関係」が4.58±0.59，⑤「向上心」が4.57±0.53，⑥「公徳心」が4.50±0.63，⑦「一瞬の勝負に対する集中力を養う」(以後，集中力と略す)が4.41±0.64，⑦「創意工夫する研究心を養う」(以後，研究心と略す)が4.41±0.68，⑨「健康増進」が4.10±0.62，⑩「瞬時の状況判断力を養う」(以後，状況判断力と略す)が4.39±0.65，⑩「地域社会や他人のために役立つ態度や習慣を養う」(以後，地域社会と略す)が4.39±0.67，⑩「義務を果たす責任感を養う」(以後，責任感と略す)が4.39±0.70となっていた。

これらの中学と高校監督の傾向や特徴から簡潔に総括すれば，上位から6番目までに位置する各項目は順位に変動はあっても共通しており，また両者を比較しても有意差は全く認められなかった。

すなわち，強烈な運命共同体の意識のもとに団結した「連帯感」と，共通の一大目標に立ち向かっていく強靱な「意思力」が，有効に作用し合って親密で協調的な「人間関係」を築きながら，可能性に挑戦する「向上心」を遺憾なく発揮して，勝利の喜びや念願を成就させ，その「達成感」に肩を抱き合い感涙する。それと同時に，人間としての基本的な「公徳心」を身に付けさせたい，という願望が主たる『クラブ活動のねらい』として集約されよう。

2．中学と高校間の項目別にみた有意差の有無

中学と高校監督を比較すると，全40項目中の23項目に何らかの有意な差が認められて，実に高校は21項目の全部が有意に大となった(表1参照)。

すなわち，1％水準の項目にあっては「実力主義の競争社会を生き抜く」(以後，競争社会と略す)を筆頭にして，「実益や収入と結びつく職業的能力を養う」(以後，職業的能力と略す)，「人間の闘争本能を解放する」(以後，闘争本能と略す)，「チャンピオン大会のNO.1を目指す」(以

表1　中学と高校監督の求める『クラブ活動のねらい』の比較

項　目　内　容	NO	中学監督 (N＝126) $\bar{X}\pm SD$	高校監督 (N＝123) $\bar{X}\pm SD$	有意性
知識や教養を高める	1	3.58±0.88	3.85±0.96	☆
運動技能を高める	2	4.35±0.57	4.32±0.59	
筋力・持久力・柔軟性を高める	3	4.25±0.58	4.29±0.62	
友人・知人と人間関係を深める	4	4.56±0.59	4.58±0.59	
健康や体力を増進させる態度や習慣を養う	5	4.35±0.64	4.40±0.62	
地域社会や他人のために役立つ態度や習慣を養う	6	4.14±0.82	4.39±0.67	☆☆
論理的な思考力を養う	7	3.56±0.81	3.94±0.78	☆☆
自主的な行動力を養う	8	4.36±0.65	4.37±0.68	
可能性に挑戦する向上心を養う	9	4.58±0.60	4.57±0.53	
創意工夫する研究心を養う	10	4.12±0.81	4.41±0.68	☆☆
努力を継続する意志力を養う	11	4.62±0.58	4.63±0.53	
瞬時の状況判断力を養う	12	4.26±0.76	4.39±0.65	
仲間と協力する連帯感を養う	13	4.69±0.54	4.60±0.55	
率先垂範の実行力を養う	14	4.04±0.78	4.27±0.68	☆
犠牲的精神を養う	15	3.37±0.97	3.63±0.91	☆
社交性に富んだ適応力を養う	16	3.59±0.84	3.93±0.75	☆☆
ルールやマナーを遵守する公徳心を養う	17	4.51±0.62	4.50±0.63	
義務を果たす責任感を養う	18	4.34±0.69	4.39±0.70	
勝利への執着心を養う	19	3.77±0.90	4.22±0.70	☆☆
誘惑を排除する自制心を養う	20	3.54±0.88	3.89±0.86	☆☆
一瞬の勝負に対する集中力を養う	21	4.21±0.81	4.41±0.64	☆
スポーツの楽しさを享受する	22	4.45±0.71	4.15±0.79	☆☆
勝利の喜びや達成感を味わう	23	4.48±0.69	4.58±0.56	
チャンピオン大会のNO.1を目指す	24	3.65±1.05	4.21±0.84	☆☆
競争心を刺激する	25	3.51±1.01	4.05±0.82	☆☆
人間の闘争本能を解放する	26	2.94±0.96	3.51±0.92	☆☆
冒険心を満たす	27	2.90±0.98	3.38±0.89	☆☆
失敗を克服して再起する態度や習慣を養う	28	4.22±0.77	4.22±0.73	
高度で専門的な技能を有する選手を育成する	29	3.06±0.98	3.56±0.84	☆☆
生涯にわたってスポーツを実践する態度や習慣を養う	30	4.10±0.98	3.87±0.79	☆
スポーツに関する経営的能力を養う	31	2.48±1.00	2.81±0.95	☆☆
プロポーション(体型)を立派にする	32	2.23±1.04	2.76±1.06	☆☆
スポーツマンシップを養う	33	4.33±0.71	4.26±0.76	
リーダーシップを養う	34	3.89±0.76	4.02±0.77	
実益や収入と結びつく職業的能力を養う	35	1.85±0.85	2.42±0.98	☆☆
スポーツ科学の専門的な知識を身に付ける	36	2.77±1.01	3.22±0.84	☆☆
応援を通して愛校心を養う	37	3.17±1.06	3.67±0.93	☆☆
人間としての倫理観や価値観を身に付ける	38	3.86±0.91	3.97±0.84	
実力主義の競争社会を生き抜く	39	2.76±1.08	3.55±0.92	☆☆
少年非行の抑止に協力する	40	3.62±0.99	3.65±1.01	

注）☆印5％水準，☆☆印1％水準で有意

後，NO.1と略す)，「競争心を刺激する」(以後，競争心と略す)，「勝利への執着心を養う」(以後，執着心と略す)，「高度で専門的な技能を有する選手を育成する」(以後，選手育成と略す)，「冒険心を満たす」(以後，冒険心と略す)，「プロポーション(体型)を立派にする」(以後，体型と略す)，「応援を通して愛校心を養う」(以後，愛校心と略す)，「スポーツ科学の専門的な知識を身に付ける」(以後，専門的知識と略す)，「論理的な思考力を養う」(以後，思考力と略す)，「社交性に富んだ適応力を養う」(以後，適応力と略す)，「誘惑を排除する自制心を養う」(以後，自制心と略す)，「研究心」，「スポーツに関する経営的能力を養う」(以後，経営的能力と略す)，「地域社会」の順序で，17項目の多数が列挙された。

さらに5％水準では，「率先垂範の実行力を養う」(以後，実行力と略す)と「知識や教養を高める」(以後，教養と略す)，「犠牲的精神を養う」(以後，犠牲的精神と略す)，「集中力」の4項目に有意な差があった。

一方，中学監督にあっては，「スポーツの楽しさを享受する」が1％水準，「生涯にわたってスポーツを実践する態度や習慣を養う」(以後，生涯スポーツと略す)は5％水準で，僅かに2項目だけが有意に大となっていて注目された。

これからも中学の段階では，まずスポーツの楽しさを理解させた上で，積極的にスポーツと係わりながら，快適な人生を送っていく“方法論”を身に付けさせたい，とする意図が感じられて充分に納得できる。

これに対して高校では，より具体的で高度な努力目標を達成するのに“専門性”が強く要求されるため，そこに実力主義の『競争原理』が導入されて，「凄まじい闘争本能」をはじめ「強烈な上昇志向」や「勝利への執着心」「自制心」「研究心」などの，“サバイバルゲーム”に生き抜くために，必要な資質や要因が随所に垣間見られた。

B．求めていきたい“能力や態度”

質問4．ここでは実際に，あなたが『クラブ活動の実践』を通して“求めていきたい能力や態度”などについてお聞きします(①～③の質問に対してそれぞれ上位から5項目だけを精選して〔　〕内へ優先順に1～5まで番号を記入して下さい)。

順位1．5点を与える。
順位2．4点　〃
順位3．3点　〃
順位4．2点　〃
順位5．1点　〃
無回答．0点　〃

3－①　あなたは，将来“オリンピック大会に出場可能な力量をもつ野球選手”を養成しようとしたら，その選手の体力や技能の他に絶対必要とされる要素には，何を要求しますか。

1．中学と高校監督の『クラブ活動の実践』を通して“求めていきたい能力や態度”の比較

中学監督の求める項目別の平均値を，上位から10項目だけピックアップして列挙すれば，①「集中力」を筆頭にして，②「向上心」，③「覇気・意欲」であった(表2参照)。さらに続いて，④「自主性」，⑤「試合度胸」，⑥「希望・夢」，⑦「素直さ」，⑧「研究心」，⑨「積極性」，⑩「創造性」となった。

一方，高校監督も①「集中力」が最も高く，次に②「意欲・覇気」，③「向上心」であった。そして④「自主性」が続き，⑤「試合度胸」，⑥「積極性」，⑦「素直さ」，⑧「研究心」，⑨「希望・夢」，⑩「思考力」「決断力」となっている。

すなわち，中学と高校監督に共通して，「オリンピック出場選手」を養成するにあたっては，その心理的な側面の要因として，1番目に要求する内容は「集中力」，2～3番目が「向上心」「意欲・覇気」，4番目「自主性」，5番目が「試合度胸」との考え方が明白になった。

2．中学と高校間の項目別にみた有意差の有無

中学と高校監督を比較すると，全31項目中の僅か2項目だけに有意差が認められた(表2参照)。それは「積極性」の高校，「創造性」の中学で，いずれも5％水準で有意に大となっていた。

すなわち，要求度の高かった「集中力」や「向上心」「意欲・覇気」などをはじめ，他の項目にあっても同程度に位置して，中・高の監督の考え方は殆ど一致していた。

3－②　あなたは，教え子が将来野球から完全に離れて“有能な社会人”として活躍を期待するとしたら，絶対に必要と考える要素には何を要求しますか。

表2　"オリンピック出場選手"に求める心理的側面の比較

項目内容	NO	中学監督 (N＝126) $\bar{X}\pm SD$	高校監督 (N＝123) $\bar{X}\pm SD$	有意性
先見性	1	0.21±0.88	0.11±0.64	
自主性	2	1.10±1.71	1.26±1.83	
創造性	3	0.49±1.30	0.20±0.73	☆
専門性	4	0.16±0.78	0.06±0.47	
計画性	5	0.10±0.56	0.17±0.75	
協調性	6	0.32±0.94	0.26±0.98	
積極性	7	0.52±1.19	0.97±1.67	☆
思考力	8	0.44±1.14	0.50±1.20	
洞察力	9	0.37±1.10	0.46±1.22	
行動力	10	0.48±1.24	0.32±0.90	
決断力	11	0.39±1.02	0.50±1.24	
集中力	12	2.09±1.88	2.10±1.99	
指導力	13	0.00±0.00	0.00±0.00	
統率力	14	0.01±0.09	0.05±0.33	
礼儀正しさ	15	0.27±0.99	0.30±0.10	
素直さ	16	0.70±1.47	0.85±1.67	
明朗さ	17	0.33±1.03	0.37±1.10	
誠実さ	18	0.29±0.97	0.16±0.74	
公平さ	19	0.02±0.18	0.00±0.00	
優しさ	20	0.01±0.09	0.02±0.18	
責任感	21	0.48±1.21	0.46±1.27	
使命感	22	0.08±0.48	0.15±0.65	
愛情	23	0.00±0.00	0.02±0.27	
希望・夢	24	0.96±1.85	0.65±1.51	
意欲・覇気	25	1.48±2.05	1.63±2.03	
リーダーシップ	26	0.05±0.45	0.08±0.51	
規律ある生活態度	27	0.43±1.22	0.45±1.25	
試合度胸	28	0.98±1.55	1.03±1.63	
向上心	29	1.63±1.94	1.50±1.84	
研究心	30	0.56±1.21	0.83±1.46	
その他	31	0.02±0.12	0.16±0.89	

注）☆印5％水準，☆☆印1％水準で有意

1．中学と高校監督の『クラブ活動の実践』を通して"求めていきたい能力や態度"の比較

中学監督の求める項目を，上位から10項目だけピックアップすれば，①「責任感」を筆頭にして，②「誠実さ」，③「協調性」「礼儀正しさ」であった(表3参照)。さらに⑤「行動力」，⑥「素直さ」，⑦「向上心」，⑧「自主性」，⑨「明朗さ」，⑩「創造性」となった。

一方，高校監督も①「責任感」が最も高く，次に②「協調性」「礼儀正しさ」であった．そして④「行動力」「素直さ」，⑥「誠実さ」，⑦「希望・夢」，⑧「意欲・覇気」，⑨「規律ある生活態度」，⑩「創造性」と続いている。

すなわち，将来の「有能な社会人」を育成するにあたっては，中・高の監督に共通して，「責任感」と「協調性」「礼儀正しさ」の3項目が，大きな比重を占めていた。

2．中学と高校間の項目別にみた有意差の有無

ここでも僅か2項目だけに有意な差が認められた(表3参照)。それは「先見性」の中学，「素直さ」の高校で，いずれも5％水準で有意に大となっていた。すなわち，要求度の高い「責任感」

表3 "有能な社会人"に求める心理的側面の比較

項目内容	NO	中学監督 (N=126) $\bar{X}\pm SD$	高校監督 (N=123) $\bar{X}\pm SD$	有意性
先見性	1	0.36±1.14	0.10±0.55	☆
自主性	2	0.66±1.47	0.57±1.44	
創造性	3	0.52±1.24	0.58±1.40	
専門性	4	0.23±0.95	0.15±0.78	
計画性	5	0.10±0.54	0.22±0.93	
協調性	6	1.39±1.75	1.41±1.91	
積極性	7	0.32±1.06	0.41±1.19	
思考力	8	0.29±0.98	0.25±0.85	
洞察力	9	0.19±0.71	0.20±0.88	
行動力	10	0.95±1.61	1.24±1.76	
決断力	11	0.28±0.97	0.31±0.93	
集中力	12	0.30±1.05	0.20±0.88	
指導力	13	0.13±0.69	0.07±0.53	
統率力	14	0.13±0.69	0.05±0.40	
礼儀正しさ	15	1.39±1.84	1.41±1.89	
素直さ	16	0.77±1.63	1.24±1.93	☆
明朗さ	17	0.56±1.37	0.54±1.25	
誠実さ	18	1.59±1.96	1.15±1.72	
公平さ	19	0.11±0.57	0.14±0.64	
優しさ	20	0.25±0.91	0.19±0.80	
責任感	21	1.96±1.79	1.90±1.84	
使命感	22	0.08±0.45	0.18±0.74	
愛情	23	0.11±0.61	0.06±0.45	
希望・夢	24	0.38±1.10	0.63±1.51	
意欲・覇気	25	0.37±1.10	0.62±1.48	
リーダーシップ	26	0.17±0.73	0.20±0.79	
規律ある生活態度	27	0.41±1.22	0.60±1.39	
試合度胸	28	0.00±0.00	0.00±0.00	
向上心	29	0.71±1.53	0.47±1.15	
研究心	30	0.26±0.94	0.30±1.03	
その他	31	0.00±0.00	0.13±0.78	

注）☆印5％水準，☆☆印1％水準で有意

や「協調性」「礼儀正しさ」「誠実さ」をはじめに殆ど相違はみられず，両者の傾向は大体で一致している。

3－③ あなたは，クラブ活動を運営する"理想的な指導者(監督)像"を実際に描くとしたら，その必須の条件としてどのような要素をお考えですか。

1．中学と高校監督の『クラブ活動の実践』を通して"求めていきたい能力や態度"の比較

中学監督の求める項目を，上位から10項目だけピックアップすれば，質問①～③を通して最高得点を獲得した2.25ポイントの①「指導力」を筆頭にして，②「愛情」，③「専門性」となった(表4参照)。続いて④「統率力」，⑤「研究心」，⑥「決断力」，⑦「先見性」，⑧「洞察力」，⑨「希望・夢」，⑩「計画性」であった。

一方，高校監督も①「指導力」が最も高くて，次に②「決断力」，③「愛情」であった。そして④「洞察力」，⑤「統率力」，⑥「責任感」，⑦「研究心」，⑧「先見性」「計画性」，⑩「希望・夢」となっていた。

すなわち，野球の指導者(監督)としては，卓越

した「指導力」と将来を見据えた部員への深い「愛情」が必須の基盤であって，次に“指揮官”の要因である「決断力」「統率力」「洞察力」「先見性」などが，両者に共通してみられた。

しかし，ここで注目すべき特徴は，中学監督にだけ「専門性」が取り上げられ，上位の3番目に挙げられた事実である。これを拡大解釈すれば，困難に直面して苦悩する中学の監督集団が，現状を打破して改革したいと願う“悲痛な叫び”であるのかもしれない。

2．中学と高校間の項目別にみた有意差の有無

ここでも僅かに2項目だけ有意な差が認められた(表4参照)。それは高校の「責任感」と「行動力」であって，いずれも5％水準で有意に大となっていた。この高校の「責任感」は上位の5番目にランクされるが，トップの「指導力」をはじめ殆ど両者に違いはなく，同様な傾向にあった。

C．監督業の“魅力・生きがい”

質問5．あなたを『クラブ活動の運営』に熱意をもって没頭させる監督業の“魅力・生きがい”とは何ですか。次に列挙する項目についてどの程度あてはまるかお聞かせ下さい(その該当する番号を○印で囲んで下さい)。

注)回答の仕方は【質問3】に同じである。

1．中学と高校における監督業の“魅力・生きがい”の比較

中学監督における項目別の平均値を，上位から10項目だけピックアップして列挙すれば，①「部員たちに素晴らしい“野球の醍醐味”を是非体験して欲しいから」(以後，野球の醍醐味を体験と略す)が4.33±0.70でトップになって，次に②「教え子が野球を離れた後も立派な社会人として活躍して欲しいから」(以後，立派な社会人の育成と略す)が4.25±0.92で続く(表5参照)。

そして③「大好きな“野球”に現在も取り組めるから」(以後，野球の指導と略す)が4.21±0.97，④「クラブ活動を通じて青少年の健全な育成に貢献したいから」(以後，青少年の育成に貢献と略す)が4.00±0.86，⑤「クラブ活動も頑張って“文武両道の実践”を標榜したいから」(以後，文武両道の実践と略す)が3.76±0.98，⑥「日の当たりに技能の進歩や上達を実感できるから」(以後，進歩や上達を実感と略す)が3.67±0.92，⑦「監督業が自分にとって最高に楽しいから」(以後，監督業を満喫と略す)が3.55±1.08，⑧「クラブ活動の“在るべき姿”を自分なりに究明して納得したいから」(以後，クラブ活動の究明と略す)が3.36±1.06，⑨「チャンピオン大会で優勝したいから」(以後，大会制覇を願望と略す)が3.25±1.21，⑩「ゲームで思うままに采配を振るえて勝負できるから」(以後，指揮権の行使と略す)が3.04±1.19となった。

一方，高校監督では①「野球の指導」が4.50±0.67となり，中・高にわたる全項目の最高値にあって，次に②「立派な社会人の育成」が4.46±0.64であった。そして③「野球の醍醐味を体験」が4.32±0.76，④「青少年の育成に貢献」が4.05±0.76，⑤「文武両道の実践」が3.94±0.77，⑥「進歩や上達を実感」が3.83±0.83，⑦「大会制覇を願望」が3.59±1.26，⑧「クラブ活動の究明」が3.50±1.04，⑨「応援を通じて強く帰属意識に目覚め一体感が高揚されるから」(以後，一体感の高揚と略す)が3.41±0.93，⑩「野球界の発展へ少しでも貢献できるから」(以後，野球界に貢献と略す)が3.37±0.96となっていた。

これらの中学と高校監督の傾向や特徴から簡潔に総括すれば，上位から6番目までに位置する各項目は，順位に多少の変動はあっても両者に共通して見受けられた。

すなわち，少年時代からの大好きな“野球”へ現在も指導者として関与できる立場・境遇に最大級の喜びを感じており，次世代の若者達へも野球のもつ素晴らしさや奥の深さを積極的に伝承して一体感を共有しながら，教え子のユニフォームを脱いだ後の社会生活での行動にも幅広く気を配っている。

又，野球を通じた青少年の育成に強く共感・共鳴すると同時に，その指導理念の旗印に“文武両道の実践”を高く掲げて日々の指導現場で情熱を燃やし，各部員の上達・向上にひたすら一喜一憂している姿が監督業の“魅力・生きがい”の最大公約数として纏められよう。

しかし，中学監督が⑦「監督業を満喫」⑩「指揮権の行使」など私的な感情を前面に押し出したのに対して，高校では⑨「一体感の高揚」や⑩「野球界に貢献」などと公人の顔をみせて，思わぬ好対照から非常に意外な感じを受けた。

なお，全26項目の平均値は中学が2.88±0.85で

表4 "理想的な指導者(監督)像"に求める心理的側面の比較

項目内容	NO	中学監督 (N=126) $\bar{X}\pm SD$	高校監督 (N=123) $\bar{X}\pm SD$	有意性
先見性	1	0.92±1.61	0.76±1.47	
自主性	2	0.03±0.35	0.07±0.53	
創造性	3	0.36±1.04	0.46±1.16	
専門性	4	1.23±1.86	0.54±1.35	
計画性	5	0.57±1.17	0.76±1.43	
協調性	6	0.00±0.00	0.11±0.61	
積極性	7	0.01±0.09	0.14±0.77	
思考力	8	0.12±0.72	0.32±0.97	
洞察力	9	0.85±1.51	0.98±1.70	
行動力	10	0.34±0.95	0.64±1.39	☆
決断力	11	0.95±1.46	1.28±1.73	
集中力	12	0.06±0.38	0.12±0.64	
指導力	13	2.25±2.04	2.20±2.18	
統率力	14	1.12±1.76	0.89±1.56	
礼儀正しさ	15	0.21±0.88	0.21±0.86	
素直さ	16	0.04±0.44	0.17±0.79	
明朗さ	17	0.34±1.02	0.20±0.83	
誠実さ	18	0.45±1.18	0.39±1.12	
公平さ	19	0.30±0.92	0.38±1.07	
優しさ	20	0.21±0.77	0.20±0.84	
責任感	21	0.40±1.16	0.85±1.70	☆
使命感	22	0.24±0.91	0.19±0.84	
愛情	23	1.29±1.97	1.07±1.81	
希望・夢	24	0.63±1.53	0.74±1.69	
意欲・覇気	25	0.38±1.21	0.64±1.45	
リーダーシップ	26	0.21±0.87	0.43±1.28	
規律ある生活態度	27	0.02±0.27	0.19±0.89	
試合度胸	28	0.04±0.44	0.06±0.41	
向上心	29	0.38±1.11	0.48±1.21	
研究心	30	1.06±1.60	0.81±1.42	
その他	31	0.03±0.35	0.04±0.45	

注）☆印5％水準，☆☆印1％水準で有意

あって，高校は3.13±0.77となっており，やや全体的に高校監督の方が上回って積極的に肯定する傾向にあった，といえよう。

2．中学と高校間の項目別にみた有意差の有無

中学と高校監督を比較すると，全26項目中の過半数となる14項目に何らかの有意な差が認められて，実に高校側が全て有意に大となっていた(表5参照)。すなわち，1％水準の項目にあっては「学校の知名度を高める有力な一手段であるから」(以後，有力なPR法と略す)を筆頭にして，「自分の"野球人生"を完結できるから」(以後，野球人生の完結と略す)，「野球界に貢献」，「一体感の高揚」，「少壮のリーダーとして大いに嘱望されているから」(以後，期待のリーダーと略す)，「監督業こそ自分の才能を最大限に発揮しうる職種であるから」(以後，恰好の天職と略す)，「努力と業績次第で将来の地位や仕事が保証されるから」(以後，監督のセミプロ化と略す)，「指導法や教育プログラムを明確にしてバイブル化したいから」(以後，教本づくりと略す)，「野球の指導」の順に9項目の多数が列挙された。

さらに5％水準では，「マスコミから"名監

表5　中学と高校監督における監督業の"魅力・生きがい"の比較

項　目　内　容	NO	中学監督 (N=126) $\bar{X}\pm SD$	高校監督 (N=123) $\bar{X}\pm SD$	有意性
大好きな"野球"に現在も取り組めるから	1	4.21±0.97	4.50±0.67	☆☆
部員たちに素晴らしい"野球の醍醐味"を是非体験して欲しいから	2	4.33±0.70	4.32±0.76	
将来有望な野球選手を養成できるから	3	2.93±0.95	3.03±0.96	
新しい戦術や戦法の開発が存分に可能であるから	4	2.94±0.98	3.20±0.93	☆
目の当たりに技能の進歩や上達を実感できるから	5	3.67±0.92	3.83±0.83	
大記録や前人未到の新記録へ挑戦できるから	6	2.29±1.00	2.48±0.95	
監督としての自分の才能を最大限に追求したいから	7	3.01±1.11	3.16±1.07	
学校の知名度を高める有力な一手段であるから	8	2.08±0.98	2.73±1.09	☆☆
教え子が野球を離れた後も立派な社会人として活躍して欲しいから	9	4.25±0.92	4.46±0.64	☆
クラブ活動も頑張って"文武両道の実践"を標榜したいから	10	3.76±0.98	3.94±0.77	
マスコミから"名監督"と呼ばれ尊敬されているから	11	1.62±0.86	1.89±0.94	☆
応援を通じて強く帰属意識に目覚め一体感が高揚されるから	12	2.92±0.94	3.41±0.93	☆☆
野球界の発展へ少しでも貢献できるから	13	2.80±1.15	3.37±0.96	☆☆
少壮のリーダーとして大いに嘱望されているから	14	1.98±0.95	2.42±0.95	☆☆
監督業が自分にとって最高に楽しいから	15	3.55±1.08	3.28±1.18	
ゲームで思うままに采配を振るえて勝負できるから	16	3.04±1.19	3.02±1.12	
チャンピオン大会で優勝したいから	17	3.25±1.21	3.59±1.26	☆
努力と業績次第で将来の地位や仕事が保証されるから	18	1.58±0.78	1.92±0.94	☆☆
自分の"野球人生"を完結できるから	19	2.27±1.13	2.94±1.26	☆☆
名声を広めて"存在"を誇示したいから	20	1.82±0.99	1.97±0.99	
自分の歩んだ足跡を後世に具体的業績として止めたいから	21	1.82±0.92	2.12±1.11	☆
クラブ活動の"在るべき姿"を自分なりに究明して納得したいから	22	3.36±1.06	3.50±1.04	
指導法や教育プログラムを明確にしてバイブル化したいから	23	2.04±0.96	2.41±0.93	☆☆
立派に成長していく教え子たちに囲まれて"監督冥利"に浸れるから	24	2.91±1.15	2.98±1.13	
監督業こそ自分の才能を最大限に発揮しうる職種であるから	25	2.44±1.16	2.95±1.05	☆☆
クラブ活動を通じて青少年の健全な育成に貢献したいから	26	4.00±0.86	4.05±0.76	

注）☆印5％水準，☆☆印1％水準で有意

督"と呼ばれ尊敬されているから」（以後，名監督と尊敬と略す）と「自分の歩んだ足跡を後世に具体的業績として止めたいから」（以後，自分史の具体化と略す），「大会制覇を願望」，「新しい戦術や戦法の開発が存分に可能であるから」（以後，新戦法の開発と略す），「立派な社会人の育成」の5項目に有意な差があった。

これからも中学に比べて高校監督の側には，愛校心や郷土意識に根ざした"使命感"或いは野球に全身全霊を託した"人生観"などが窺えて，随所に強烈な個性や自己主張となって大きく投影されていた。

D．監督としての"悩み・苦しみ"

質問6．あなたが『クラブ活動を運営』するにあたって，実際に直面する指導上の具体的な"悩み・苦しみ"とはどんな事柄でしょうか。次に列挙する項目について，どの程度あてはまるかお聞かせ下さい（その該当する番号を○印で囲んで下さい）。

注）回答の仕方は【質問3】に同じである。

1．中学と高校監督における具体的な"悩み・苦しみ"の比較

中学監督における項目別の平均値を，上位から10項目だけピックアップして列挙すれば，①「ピッチング技術（投手）の指導」（以後，投手指導と略す）が3.66±1.15で，中・高にわたる全項目

の最高値にあって，次に②「幅広い専門知識に裏付けられた監督としての指導力」(以後，指導力と略す)が3.63±1.16で続く(表6参照)。

そして③「バッティング技術の指導」(以後，打撃指導と略す)が3.58±1.16，「変化球の攻略法」(以後，変化球打ちと略す)も3.58±1.08，⑤

表6　指導上の具体的な監督としての"悩み・苦しみ"の比較

項　目　内　容	NO	中学監督 (N=126) $\bar{X}\pm SD$	高校監督 (N=123) $\bar{X}\pm SD$	有意性
学校の教育方針・支援体制	1	2.92±1.08	3.33±0.99	☆☆
野球部員の必要最低人数の維持	2	2.97±1.26	2.56±1.29	☆
優秀な野球部員のスカウティング(勧誘)	3	2.52±1.14	3.53±1.03	☆☆
新入部員たちの体力低下や不器用性	4	3.43±1.20	3.41±0.89	
横行する不良部員の言動(いじめなど)	5	2.13±1.04	2.28±1.00	
練習時間の必要最低限の維持	6	3.15±1.13	2.69±1.05	☆☆
道具や練習機材，野球場の確保	7	3.22±1.22	2.59±1.11	☆☆
トレーニング関連の用具や場所の確保	8	3.33±1.15	2.81±1.14	☆☆
夜間照明灯など照明設備の整備	9	2.71±1.21	2.67±1.18	
雨天時における屋内練習施設の確保	10	3.47±1.25	2.90±1.38	☆☆
突発的事故に対処する医療体制	11	3.20±1.13	3.10±1.03	
幅広い専門知識に裏付けられた監督としての指導力	12	3.63±1.16	3.46±0.99	
チームづくりの方向性	13	2.91±1.00	3.19±1.12	☆
部員たちの野球へ取り組む姿勢や態度	14	3.07±1.10	3.24±1.14	
練習を円滑に進めるスタッフ(コーチなど)の整備	15	2.82±1.17	3.06±1.18	
合理的な練習プログラムの作成	16	3.40±1.13	3.07±1.00	☆
効率的で実戦的な練習法	17	3.54±1.11	3.22±1.04	☆
効果的なミーティングの持ち方	18	3.32±1.06	3.16±0.99	
準備運動や整理運動の進め方	19	3.05±1.05	2.84±0.98	
ピッチング技術(投手)の指導	20	3.66±1.15	3.25±1.24	☆☆
キャッチング技術(捕手)の指導	21	3.52±1.17	3.22±1.15	☆
フィールディング技術の指導	22	3.36±1.10	3.09±1.13	
組織的集団技能(バント・ディフェンスなど)の指導	23	3.31±1.09	3.04±1.16	
バッティング技術の指導	24	3.58±1.16	3.28±1.18	☆
ベースランニング技術の指導	25	3.26±1.07	3.10±1.09	
ベースコーチ技術の指導	26	3.41±1.04	3.15±1.11	
投球の組み立て(配球)	27	3.37±1.06	3.22±1.18	
打者の立場から配球の読み	28	3.29±1.07	3.13±1.11	
変化球の攻略法	29	3.58±1.08	3.33±1.10	
ゲームにおける必勝法	30	3.41±1.10	3.24±1.14	
スランプの打開策	31	3.22±1.10	3.05±1.11	
勝負強い野球選手を育成するノウハウ(秘訣)	32	3.53±1.15	3.51±1.08	
野球選手としての専門的体力づくり	33	3.35±1.07	3.31±1.06	
怪我や故障選手のリハビリテーション	34	3.57±1.05	3.41±1.11	
指導に対する外部(先輩・後援会など)からの批判・圧力	35	2.60±1.20	2.86±1.15	
勉強とクラブ活動の両立(野球部員対象)	36	3.19±1.01	3.43±0.96	
食生活を中心とした健康管理(野球部員対象)	37	3.10±1.01	3.59±0.97	☆☆
余暇時間の有効利用(野球部員対象)	38	2.82±1.00	3.12±0.92	☆
異性との交友関係(野球部員対象)	39	2.47±0.85	2.87±0.87	☆☆

注) ☆印5％水準，☆☆印1％水準で有意

「怪我や故障選手のリハビリテーション」(以後，リハビリと略す)が3.57±1.05，⑥「効率的で実戦的な練習法」(以後，練習法と略す)が3.54±1.11，⑦「勝負強い野球選手を育成するノウハウ(秘訣)」(以後，選手育成法と略す)が3.53±1.15，⑧「キャッチング技術(捕手)の指導」(以後，捕手指導と略す)が3.52±1.17，⑨「雨天時における屋内練習施設の確保」(以後，屋内練習施設と略す)が3.47±1.25，⑩「新入部員たちの体力低下や不器用性」(以後，体力低下と略す)が3.43±1.20となっていた。

一方，高校監督では①「食生活を中心とした健康管理」(以後，健康管理と略す)が3.59±0.97で最も高く，次に②「優秀な野球部員のスカウティング(勧誘)」(以後，スカウトと略す)が3.53±1.03であった。そして③「選手育成法」が3.51±1.08，④「指導力」が3.46±0.99，⑤「勉強とクラブ活動の両立」(以後，文武両道と略す)が3.43±0.96，⑥「体力低下」が3.41±0.89，「リハビリ」も3.41±1.11，⑧「学校の教育方針・支援体制」(以後，支援体制と略す)が3.33±0.99，「変化球打ち」も3.33±1.10，⑩「野球選手としての専門的体力づくり」(以後，体力づくりと略す)が3.31±1.06となっていた。

これらの中学と高校監督の傾向や特徴を簡潔に総括するために，各項目毎に両者の平均値を加算すると，監督としての「指導力」を筆頭にして，次に「選手育成法」となり，更に「リハビリ」，「変化球打ち」の順序となって，この4項目が中学と高校の監督に共通した大きな"悩み・苦しみ"とわかった。

しかし，中学では直接現場で手取り足取りした①「投手指導」をはじめ，③「打撃指導」や⑧「捕手指導」などと，具体的な指導の方法論やワン・パターン化した⑥「練習法」が，上位にクローズアップされている。

それに対して高校では，食生活を中心とした①「健康管理」の問題や②「スカウト」，⑤「文武両道」，⑧「支援体制」などと部活動を取り巻くやや間接的な事柄が上位に挙げられて，野球技術の指導に課題を抱える中学側とは明らかに相違した。

2．中学と高校間の項目別にみた有意差の有無

中学と高校監督を統計学的な見地から比較すると，全39項目中の16項目に何らかの有意な差が認められた。それは中学が10項目であり，高校は6項目にみられて，中学側にやや多くの"悩み・苦しみ"の存在がうかがえる(表6参照)。

まず，中学側に1％水準で有意に大となったのは，「道具や練習機材，野球場の確保」(以後，野球場と略す)，「トレーニング関連の用具や場所の確保」(以後，トレーニング用具と略す)，「屋内練習施設」，「練習時間の必要最低限の維持」(以後，練習時間と略す)，「投手指導」の順に5項目であった。5％水準では「野球部員の必要最低人数の維持」(以後，部員確保と略す)，「合理的な練習プログラムの作成」(以後，練習計画と略す)，「練習法」，「捕手指導」，「打撃指導」の5項目である。

一方，高校の1％水準は「スカウト」，「健康管理」，「異性との交友関係(野球部員対象)」(以後，交際と略す)，「支援体制」の4項目であって，5％水準は「余暇時間の有効利用(野球部員対象)」(以後，余暇利用と略す)，「チームづくりの方向性」(以後，チーム編成と略す)の2項目にみられた。

すなわち，中学監督が日常的に直面する"悩み・苦しみ"の多くは，野球の"練習環境にある"と考えられる。それは部員数や練習時間をはじめ，練習機材やグラウンドの確保であり，その延長にトレーニング用具の整備や雨天時での練習施設の必要性が叫ばれているのであろう。

それに対して高校では，素材優秀な中学選手の"青田刈り"に対する批判が最も多く，次に選手の身体づくりに不可欠な食生活の偏りや学校側の支援体制の問題などが主な内容となっていて，中学側との違いを鮮明にしていた。

なお，全39項目において中学監督は3.19±0.36であって，高校監督は3.11±0.29となったので，両者に有意な差はみられない。

しかし，「投手指導」や「打撃指導」「捕手指導」など"技術指導"の7項目を比較すると，中学が3.44±0.15，高校が3.16±0.09になって，1％水準で前者が有意に大となっていた。

そして更に全7項目のいずれも中学側が高い数値を示していたので，高校監督よりも深い悩みを抱える実態が明らかとなった。早急に指導力強化のため，中・長期的な展望から具体的な研修プログラムの施策を，日本中学校体育連盟や全日本野球会議の指導者育成委員会などが中心となって，

全国各地で活発に開催されんことが望まれる。

参考文献

1）桝本直文(1979)：筑波大学生の生活意識の構造．大学体育研究１：7-25.
2）日本体育協会(1974)：日本人のスポーツ行動～'73スポーツ・健康に関する国民の意識調査報告書～．日本体育協会．東京．pp99-119.
3）日本体育協会(1975)：日本人のスポーツ行動の階層構造～'73日本人のスポーツ行動の解析～．日本体育協会．東京．pp57-80.
4）大木昭一郎(1993)：大学教員の生活・スポーツ・職業に関する意識調査．大学体育研究15：97-146.
5）山川岩之助(1984)：筑波大学生の運動生活に関する調査．大学体育研究６：63-104.